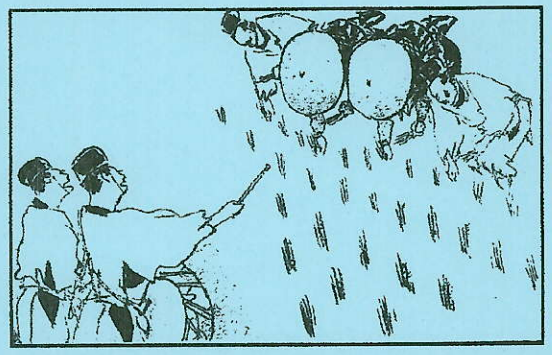
六ッ美悠紀斎田お田植えまつり

大嘗祭　悠紀斎田（だいじょうさい　ゆきさいでん）



大正４年、大正天皇即位の大嘗祭を行うにあたり、儀式に用いる新米を収穫するために京都より東日本を悠紀（ゆき）、西日本を主基（すき）として、斎田が選定されました。

悠紀斎田に岡崎市中島町（旧碧海郡六ッ美村大字中島字丸の内）、主基斎田に香川県（旧綾歌郡山田村）の田が選ばれました。

ここ中島町は、明治 34 年に全国でも先駆けて耕地整理が行われました。田を整地・区割し、矢作川の清らかな水を取り入れ、安藤川へ排水する仕組みを作り上げることで、稲の収穫量増加に成功していました。また、現在のＪＲ岡崎駅から名鉄西尾駅間に西尾軽便鉄道が開通しており、中島駅・占部駅がありました。

このように、耕地整理の完了・用排水路の整備・交通の便が良いこと等が悠紀斎田として最高の土地であると認められました。

天皇一代に一度限りの大嘗祭斎田に選ばれたことはとても名誉なことであり、六ッ美村民はもとより愛知県民挙げての協賛で儀式が進められました。

大正４年(1915 年)4 月 23 日種まき、6 月 5 日～7 日田植え、9 月 25 日刈り取りを終え、10 月 16 日新穀・白米１石（150 kg）を無事京都御所に供納し大任を果たしました。これらの式典には累計 40 万人の参観者があり、特に６月５日の田植祭には、７万人余の人々が集まり大変な賑わいでした。

これらの記録とこの時使われた農耕器具・装束は、中島町の斎田跡地に新設された岡崎市地域交流センター六ツ美分館『悠紀の里』に保存・展示されています。

また、昭和 41 年に岡崎市無形民俗文化財に指定された「六ッ美悠紀斎田お田植えまつり」は、毎年６月に斎田跡地圃場にて開催されます。

「菊菱」　「稲の丸」

女性は「藍色の着物に菊菱と稲の丸の古代染め」、男性は「白の上衣に浅葱色の短袴」という当時さながらの衣装を身に着け、歌と踊りに合わせて斎田に早苗を植えます。

まつりで使われる苗は、当時栽培された稲と同じ「萬歳(ばんざい)」という品種です。県農業試験場に保管されていた種もみを保存会員が 90 年ぶりに栽培することに成功し、復刻米として現在のまつりでも田植えをし、収穫できるようになりました。先人の農業に対する苦労と業績を、六ツ美地域の人々が 100 年以上に渡って受け継ぎ、未来の世代へと伝えています。

平成 27 年６月７日には大嘗祭から 100 周年を記念して、秋篠宮殿下、同妃殿下をお迎えしてお田植えまつりが盛大に開催されました。

（注）「むつみ」の漢字表記につきましては、現在は「六ツ美」に統一されています。
この印刷物では、当時使用していた旧表記「六ッ美」も使用しています。